

おてら

先祖への供養は

私への供養

春彼岸法要会

三月十七日～二十三日

三月二十日(土・祝)

午前十一時より

彼岸中日法要

護持会総会

おときは中止致します

ご本尊様にお参りしてから

お墓参りをしましょう

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会

写経会

毎月第二・四金曜日
午後一時より

報恩

位職 蒲原 霊英

コロナ禍で、様々な業種の会社が経営危機となつていますが、我が母校の慶應義塾大学の学食・山食も例外ではありませんでした。八十三年の歴史の中でこのようなことは初めて。大学に学生が来れないのですから当然です。融資を受けたり対策を考えたりしても手詰まりで、最終手段としてクラウドファンディングをしたところ、僅か一日で目標額の五百万円をクリアし、結局一ヶ月半で四千三百万円以上が集まりました。これぞ三田会(同窓会)の結束力とも言えますが、お金の無い学生時代に空腹を満たしてくれたことに対する、一人ひとりの恩返しへの気持ちの表れでしょう。

さて、恩という字は「因」と「心」の組み合わせで成り立っています。因は「もと」と読み、「もとを思う心」が恩なのです。何のもとかといえ、それは私たちのいのちの源です。私一人のいのちがこの世に存在するためには、両親、祖父母、曾祖父母と三代遡るだけで十四人の「親」と呼ばれた人がいました。十代で二千人以上、二十代で二百万人以上になります。血縁だけ見ても、これだけ多くのいのちによって私のいのちが支えられています。また、身近な人たちだけでなく、会ったこともなければ何の関係も無いと思われる人たちによっても支えられながら生活しています。何より、無数のいのちを摂取しながら、そして、水や空気や光などの自然環境を含めたありとあらゆるもののおかげで、私のいのちは成り立っています。まさに、様々なご縁とご恩によって、今の私のいのちが生かされています。

お釈迦様は、「知恩」恩を知ると、「感恩」感謝の心が生まれ、「報恩」さらにその恩に報いようという気持ちになるので、まず恩を知ることが大事だと説かれます。「報恩」の実践には二通りあって、一つは「恩返し」、つまり親や祖父母や師や知人・友人など直接恩を受けた人にお返しすることです。もう一つ、「恩送り」という言葉があります。受けた相手に限らず、恩を別の誰かに送り、その誰かがまた別の誰かに恩を送ることです。どちらも、人に対してのみならず、私のいのちを支えてくれている動植物や自然環境などに対しても同じことが言えるでしょう。彼岸に際し、改めて私のいのちの尊さを感じ、様々なご縁とご恩に感謝のお念仏を申しませう。合掌

コロナ禍の中

御正忌報恩講



ご門主様ご親教(法話)
YouTube 配信動画より(2021.1.15 速夜法要後)

宗派公式ウェブサイトでライブ配信され、参拝できない大勢の僧侶や門信徒らが画面を通してお参りしました。尚、書院・鴻の間の齋接待などの関連行事や来賓参拝も中止となり、異例なくめの報恩講となりました。

ご門主はアクリル板越しでのご親教(法話)で、「このような状況の中で、私たちは一人ではなく、社会の中で、すべての人々と手を携えて共に歩む念仏者であるということに改めて思いを致し、日々を過ごしてまいりましょう」と述べられました。

本願寺の御影堂で一月九日から御祥月御命日の十六日まで、浄土真宗のみ教えを伝えてくださった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、お念仏に遇わせていただいたご恩に報謝する御正忌報恩講が、感染症対策の下厳かに営まれました。

当初は御影堂の席数を例年の四分の一程度の約三百席に絞り、事前予約制とする予定でしたが、年末年始の感染者急増に伴い事前予約の受付を急遽中止。当日の自由参拝を急遽中止しました。また、外部からの法要出勤者の受け入れも中止され、式務部員と勤式研究生のみが出勤しました。期間中の各法要の様子はた。期間中の各法要の様子は



逆遠近法で描かれている国宝・鴻の間の「張良引四皓謁太子図」



西本願寺の七不思議
その三
鴻の間の障壁画

国宝の書院に、ご門主との対面に使われる対面所と呼ばれる二〇三畳もの大広間があります。上段正面の欄間に雲間を飛ぶ鴻の透かし彫りがあることから、鴻の間とも呼ばれます。この書院は伏見城から移築されたものとも言われ、上段の床には、張良(ぜんかん)前漢建国の功臣)が四賢人(秦の始皇帝による圧政と国乱を避ける為に陝西省南山に遁世した東園高・綺里季・夏黄公・用里先生の四人)を率いて恵帝に謁見する様子が描かれた「張良引四皓謁太子図」があり、この絵は逆遠近法で描かれています。

この前に座った人物は離れるほど大きく見るといふ効果があり、豊臣秀吉が上段に座った時に、少しでも体を大きく見せるために描かれたのだとも言われています。逆遠近法を用いてまで自分を大きく見せようとした秀吉は、自分が小さいことに相当コンプレックスを持っていたようです。尚、南端に座った時に一番大きく見えるそうです。

